

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名鳥取県立智頭農林高等学校

| | | | |
|------|---------|-----|-------------|
| 重点項目 | 地域連携重点校 | 提出日 | 平成 31年 4月 日 |
|------|---------|-----|-------------|

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 学校目標 | |
| <p>「一人ひとりを大切に」を教育の根幹におき、勤労と責任を重んじ、心身とも健康で地域産業及び社会の発展に貢献できる人材を育てる。</p> <p>(1) 学習指導の充実～授業実践および県版SPHやスーパー農林水産業士の取り組みをとおして「学びの質」をあげ、生徒の学力の向上を目指す～</p> <p>(2) 生徒指導の充実～規範意識の醸成と清々しい教育環境の整備を図る～</p> <p>(3) 生徒支援の充実～年間を見通した生徒支援を行い、生徒一人ひとりの進路実現を図る～</p> <p>(4) 地域連携の充実～地域の教育資源を活かし、本校の教育資源を地域に活かす～</p> | |
| 2 重点項目に係る目標・成果 | |
| 目標 | 成果 |
| <p>○地域連携を通して、地域の活性化に寄与するとともに、生徒の全人的な発達を促し、地域に期待される学校をめざす。</p> <p>○地域や地元産業と「顔の見える連携」を推進し、生徒が自主的に活動できる機会を持つことで、関わった生徒の満足度や達成感、自己有用感が高まるなど教育的効果を期待する。</p> <p>○本校の教育資源と地域の教育資源を活用することで、学校と地域の活性化を図るとともに、学校の特色化・魅力化を推進する。生徒や教職員の専門的知識や技術力を、可能な限り地域に発信できるよう連携を密にする。</p> <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を教育内容に取り入れている専門科目50%以上をめざす。 ・参加生徒アンケートにより、満足度80%以上をめざす。 ・地域連携活動後に地域からの評価アンケートを実施し、80%以上の評価をめざす。 | <p>ちのりんショップは地域に定着しつつあり、新たに地元の保育園との菜園交流を実施した。生徒数が昨年度より少なくなったが、地域の木女会との技術交流、棚田の補修、格子の製作、藍染のれんの製作など継続して実施することができ、関わった生徒は満足感ややりがいを感じている。中学生の体験入学では、参加者が昨年より3割増えており、本校の教育資源と地域の教育資源を活用した活動が地域や中学校にも浸透しつつある。</p> <p><数値結果></p> <p>平成30年度 42%</p> <p>平成29年度 31.9%</p> <p>1年生75%、2年生73%、3年生70%</p> <p>88%</p> |
| 3 実施事業 | |
| <p>【高等学校課事業】</p> <p>(1) 地域連携担当教員の配置</p> <p>地域と連携した学校の特色化に取り組み、地域の特性を生かした教育活動を効果的・効率的に展開するために、地域連携の中心を担う教員を配置。</p> <p>※以下は、主幹として取り組んだ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版SPH事業の地域連携活動（「地域基礎」の実践、インドネシアとの交流学習等） ・地域との各種交流活動やボランティア活動（地元中学校との交流活動等） ・学校の専門的知識や技術の地域への発信活動（技能フェアや学校祭での体験教室等） | |

・地域コーディネーターとの連携

(2) SPH (スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール) 事業

※ 以下は、「地域連携」に重点をおいた内容

・人材育成事業 インドネシアとの交流学習

・学習指導の改善事業 地域理解のための基礎科目の開発と実践(「地域基礎」の教育内容の充実)

・地域連携・貢献事業 地域の伝統的な文化や技術を継承し発展させる取組

①棚田の補修の取組 ②格子の製作

【独自事業】

(1) 保育所・高齢者福祉施設との藍染め交流

事業のねらい

①藍染め交流を通して保育施設の果たす役割や幼児の特徴の理解に役立てる。

②藍染め交流を通して高齢者福祉施設の果たす役割や高齢者の理解に役立てる。

③保育園児や高齢者との染色を通じた交流を図ることにより、相手を思いやる心やコミュニケーション能力を育てる。

④本校で学んだ藍染めを地域の方に伝えることにより、本校で行っている実習内容を実際に広く地域の方に知っていただく。

事業内容

①保育園児との藍染め交流(生活環境科3年)

保育園児を本校の実習室に招き、ハンカチの絞り染め作品を制作する。藍染めの経験を積んだ生徒の指導により、園児との交流を深めながら作品制作をする。できあがった作品は、保育園の生活発表会で展示する予定である。

②地域高齢者との藍染め交流(生活環境科2年)

生徒が施設へ出向き、施設利用者とともに、ハンカチの絞り染め作品を制作する。藍染めの経験を積んだ生徒の指導により、施設利用者との交流を深めながら作品を制作する。準備過程での作業(ハンカチを折る・ゴムなどで絞る)は、機能訓練の一環にもなるので、高齢者の身体状況を理解する機会として今後役に立つと考えている。

(2) 地元商店街における生産物の販売

事業のねらい

①学校や地域で生産される農産物・加工品を町内の商店街で販売し生徒のコミュニケーション能力や経営感覚を育成する。

②地域特産品の開発、販売を通して起業家教育を推進する。

③地域の商店街で活動することで地域の実情を体感し、地域の活性化を図る。

④取組の成果や商店街の課題等について、高校生の視点で智頭町百人委員会で報告を行う。

事業内容

①店舗(ちのりんショップ)は智頭駅近くの空き店舗を利用する。販売日程は5月～12月の8ヶ月間、月当たり土曜日1回(土曜授業等)・平日1回を予定している。平日の授業は課題研究の時間をあてる。

②販売品目は、智頭農林で生産した野菜、パン、スイーツ、切り花・花苗に加え智頭町の農家および企業と連携した生産物を仕入れたものとする。店舗にPOSシステムを導入することにより、顧客に関する情報を収集し、商品の売れ筋動向を調べ、計画的な生産と仕入に関する学習に取り組む。

③生徒が自ら地元商店街で販売することで、農業に関する学習だけでなく地域の過疎化や高齢化問題を学習する。

④商品陳列やPOPなどを工夫することによって、顧客の満足と集約について 学習する。

⑤研修旅行の科別研修として、大阪など都会での販売実習を実施する。(智頭町百人委員会で予算要求を予定)

(3) 中学生と本校生徒の桜土手花壇整備

事業のねらい

- ①中学生と本校生徒が主体となって、共同の学習活動を行うことで、学ぶ喜びや地域を共同で美化する社会貢献活動を体験する。
- ②中学生に農林業専門高校である本校の理解を深めてもらう機会とする。

事業内容

①地域美化活動教室（桜土手花壇の苗育成から植栽、管理活動）

- | | | | | |
|-------|-----------|---------|----|-------------|
| (1回目) | 6月上旬 | 桜土手の除草 | 本校 | 1～3年生、智頭中生徒 |
| | | 夏花壇苗の定植 | 本校 | 1～3年生、智頭中生徒 |
| (2回目) | 10月～11月下旬 | 桜土手の除草 | 本校 | 1～3年生、智頭中生徒 |
| | | 冬花壇苗の定植 | 本校 | 1～3年生、智頭中生徒 |

(4) 智頭中学生と本校の学校間交流事業

事業のねらい

- ①智頭中学生を含め、県内外の関係機関に対し農林業専門高校である本校の理解を深めてもらう機会とする。
- ②智頭中学生と本校生徒が主体となって、共同の学習活動を行うことで、学ぶ喜びや感謝の気持ちを形にする活動を体験する。

事業内容

①智頭中学校との交流

10月中旬に本校を会場として、本校3年生が智頭中学2年生徒に、各専門科の技術を活かした作品づくりを手ほどきする。ふるさと創造は「ルバーブを使ったジャム作り」、森林科学科は「智頭杉を使ったペン立て」、生活環境科は「藍染めハンカチ作り」。

4 総合所見（成果・評価）

地域と連携した活動を取入れる科目は増えており、地域連携に関わる教員も増えている。地域連携担当教員は、地域からの要望を聞いて活動を企画したり、地域で行われるイベント等への参加において窓口となるなど、新規の活動を始める上で重要な役を担っている。

県版SPH事業では、地域の多くの事業所や教育機関との連携、国際交流学習など、学校での授業や実習では体験できない専門的で幅広い知識と技術を学ぶことができた。林業現場の要望を取入れてより高度な実習の回数を多くし、ALTとの英会話学習を実施するなど、改善に取り組んでいる。棚田保全の取り組みでは活動場所での地域住民アンケートを実施したことで、山間地域の現状や課題を認識するとともに、高校生の活動に期待が寄せられていることがわかり、継続していくことの必要性を感じている。

学校設定科目「地域基礎」では、地域住民を講師として迎えて直接意見交換する等、地域の活性化をより身近な問題として捉えられるよう工夫した。「地域基礎」の意義を生徒が理解し、上級学年での地域実践へ繋がるよう、内容や生徒発表方法等の改善が必要である。

生活環境科での藍染めをとおしての保育園児や地域高齢者との交流は、地元産業を学習していることを地域の方に知っていただくとともに、思いやりの心を育成するという効果があった。しかし園児や高齢者の人数に比べて生徒数が少なく、事前事後の作業が負担となっている。

ふるさと創造科のちのりんショップは地域に定着しつつあり、食品加工の授業で取組む新商品の試食販売を取入れるなど集客企画面で改善がみられた。接客技術の向上や、他科の生産物の販売など取組むべき課題がある。

桜土手花壇整備は、中学生と一緒に活動することを計画していたが、中学校との日程調整が難しく、中学校へ苗を提供するのみで交流にはならなかった。今年は保護者の方にも参加していただき、本校生徒と保護者が熱心に奉仕に取組む姿と、きれいになった桜土手を、地域の方には喜んでいただいている。

智頭中学校との交流では、本校3年生が智頭中学校2年生の生徒に、各専門科の技術を活かしたものづくりを手ほどきした。本校の専門性を中学校の生徒へ直接伝えることができるよい機会となり、本校の魅力発信に繋がったと感じるが、中学校側との日程調整が難しいことが課題である。

※枚数任意